

リスクを明確に認識するための  
リスクワークショップ等の手段について

|                  |         | VFMに関するもの                              | リスク分担に関するもの                      |
|------------------|---------|----------------------------------------|----------------------------------|
| 従来型<br>(サービス購入型) |         | 支払額削減以外のVFMについて                        | リスクを明確に認識するためのリスクワークショップ等の手段について |
|                  |         | VFMが果たすべき役割について                        |                                  |
| 新たな事業類型          | 収益施設併設型 | 新たな事業類型におけるVFM評価のあり方について               | 本体事業と付帯事業との間のリスク遮断について           |
|                  | 運営権活用型  | (現時点で既往事例が存在しないため、空港等の先行事例の動向を見据えつつ対応) |                                  |

1. 現状の課題等の整理

- ・ 事業期間中の物価上昇／需要変動リスクは民間事業者が懸念するリスクの一つであり、効果的なリスク管理方法が望まれているところである。このような点を踏まえ、国内外におけるリスク管理方法の考え方等の紹介を行う。

2. 物価変動／需要変動リスク等について (資料5-2)

(1) 物価変動リスク

① 建設期間中の物価変動リスク

- ・ 建設期間中の物価変動リスクについて、我が国のPFI事業では工事期間中の物価変動は考慮しない場合が多く、これは英国の事業においても同様の傾向がみられる。
- ・ 一方、我が国における昨今の建設費の上昇を背景として、建設

費用の物価変動に伴うサービス購入料の改定を認める事例も存在しており、今後、建設期間中の物価上昇リスクの取り扱いについて、事業の特性等に応じて留意する必要があるとも考えられる。

## ②運営期間中の物価変動リスク

- ・運営期間中の物価変動リスクについては、国内外ともに、物価変動に応じて運営に係るサービス対価を変更することが基本となっている。

## (2) 需要変動リスク

- ・我が国においては、特に民間事業者の運営比重の大きい事業において、需要変動リスクの全部または一部を民間事業者負担としている内容がみられる。民間事業者のリスク負担割合は、事業の特性等に応じて事業毎に設定されている状況にある。
- ・海外の事例として、例えば英国においては、民間事業者のパフォーマンスが施設の利用量に影響を与える場合には、需要変動リスクを民間事業者負担とすることにメリットがあるとしているものの、全ての需要変動リスクを民間事業者負担とすることは適切でない、という考え方が基本となっている傾向にある。

## 3. リスクワークショップの構成メンバーについて (資料5-3)

- ・リスクワークショップの構成メンバーとしては、主に、「プロジェクトリーダー」、「各部門の責任者」、「各部門の担当者（技術的専門家）及び「ファシリテーター」が挙げられる。このうち、各部門の担当者（技術的専門家）及びファシリテーターについては、対象分野に知見を有する外部の専門的アドバイザーの活

用が効果的であると考えられる。

- ・ リスクワークショップの進行においては、ワークショップをマネジメントし適切にリスクプロセスに誘導する「ファシリテーター」の役割が重要である。ファシリテーターは、中立的な立場からワークショップを円滑に進行する進行役であり、参加者から適切な情報を引き出す役割を担う。リスクワークショップの実施により、地方公共団体等職員のファシリテーター能力養成も期待できる。